


らいさま

＜特集＞
変化する学校とコミュニティ

栃木県下野市は、雷とともに夕立が多い地域です。雷は昔から「雷（らい）さま」と呼ばれ、豊かな作物を育てる恵みの雨をもたらす存在としてあがめられてきました。雨降って地固まると言われるように、この情報紙が、豊かな地域づくりにつながるように「らいさま」と名付けました。

★下野市自治基本条例とは…

私たち市民にとって、よりよいまちづくりを進めるための基本的な考え方、ルールを定めた自治基本条例（平成26年4月制定）は、特別な規制を設けるものではなく、日々さまざまな活動を行っていく中で、よりよい下野市のまちづくりに役立てていこうとするものです。

- 
- P.2 進化する学校区コミュニティ
P.3 薬師寺地区は地域資源がいっぱい
P.4 移り変わる暮らしと地域資源
P.5 薬師寺地区のスポーツコミュニティ・薬師寺コミュニティはミルフィーユ
P.6 外の目中的目・らいさまNEWS

令和4年 8月
VOL.15

進化する学校区コミュニティ



薬師寺小学校校章のデザインは戦後、児童からの公募により決まりました。



べにまる

薬師寺小学校の校章ってまわりに9本の矢羽根がついてるんだよ。やくしじだから矢が9本なんだって！

前号に引き続き、第15号では義務教育学校*として令和4年4月に南河内小中学校を開校することに伴う学校区の変化に着目し、令和4年3月に閉校を迎えた薬師寺小学校区について調べることにしました。

※義務教育学校・・・小学校から中学校までの9年間の教育課程を一貫して行う学校。南河内小中学校の児童・生徒数は小学生が521名、中学生が251名です。(令和4年5月1日現在)



こまる

下毛野朝臣古麻呂
(しもつけのあそんこまる)
(大宝律令の選定に携わった下野市ゆかりの人物)

薬師寺小学校沿革

明治 6年(1873年)	教育舎として創立
〃	仁良川学舎創立(らいさま9号でも紹介しています)
昭和22年(1947年)	薬師寺小学校と改称
昭和30年(1955年)	南河内村立薬師寺小学校と改称
昭和39年(1964年)	仁良川学舎廃止、本校への統合
昭和46年(1971年)	南河内町立薬師寺小学校に改称
平成18年(2006年)	下野市立薬師寺小学校に改称
令和 4年(2022年)	義務教育学校への統合(薬師寺小学校、吉田西小学校、吉田東小学校、南河内中学校)により閉校

”薬師寺地区の中学校の変遷”

昭和30年(1955年)の二村合併(旧薬師寺村と旧吉田村が合併し南河内村が誕生)を経て、南河内中学校は、薬師寺中学校と吉田中学校の統合により昭和 36(1961年)年に現在の南河内小中学校の敷地に創立されました。

それ以前の薬師寺中学校の建物は薬師寺小学校に付設されていました。現在の南河内小中学校と同じように同一敷地内に小学校と中学校があり、一部の教室は共用されていました。

平成6年(1994年)には、人口の増加により南河内中学校区が分かれ、南河内町立第二中学校が開校しました。



薬師寺小学校の歴史はなんと**149年**も続いていたんだよ！



第二中学校区も元々は薬師寺地区だったんだね。



学校再編により南河内小中学校が開校し、薬師寺小学校区に新しい時代の夜明けが訪れました。



つながッテルね!
条例6条

(情報提供)

第6条 議会及び市は、その保有する情報について市民との共有財産であるとの認識に立ち、積極的に、かつ、分かりやすく市民への情報提供に努めるものとする。

薬師寺地区は地域資源がいっぱい

薬師寺小学校区はどのようなところでしょうか？そして薬師寺小学校閉校に伴い地域コミュニティに変化はあるのでしょうか？薬師寺八幡宮の小島さんや竹の子クラブ、薬師寺にお住いの舘野さん、その他にも地域に関わる方々にお話を伺いました。



薬師寺八幡宮
宮司 小島教敬さん



竹の子クラブ
指導者 宮崎真人さん



下野市生涯学習情報センター
社会教育指導員 舘野弥生さん

八幡神はお寺の守り神として一緒に祀られ、全国の国分寺建立と併せて最初に広まりました。

他にもいろいろな人が薬師寺小学校区のことを教えてくれたんだよ！



薬師寺八幡宮について伺いました

古くから地元の人々に親しまれる薬師寺八幡宮のある場所は、もともと雷電神社のものであったと言われています。あるとき神様がやってきて八幡宮のために藁一束分だけ敷地をくれというので承諾したところ、藁を一本一本繋いで広い敷地を囲われてしまったので、雷電神社はほとんどの土地をあげる羽目になったそうです。

舘野さんが子供の頃は、薬師寺八幡宮の長い参道に桜の木がたくさん並んでいて、とてもきれいな光景が広がっていました。昭和初期までは駆ける馬の上で矢を射る流鏝馬（やぶさめ）がこの参道で行われていましたが、馬の確保などが難しく取りやめになりました。

日本三戒壇の一つ、下野薬師寺は病氣平癒のために建てられた寺院で、僧侶が学問に励んだ場所なんだって。薬師寺小学校区には自治医科大学附属病院があるから、この地は今も病氣平癒と学問に励む場所ってことだよ！



薬師寺八幡宮へ向かう参道入口



つながッテルね！
条例13条

（市民の責務）

第13条 市民は、次に掲げる責務を有するものとする。
(3) 自らがまちづくりの主体であることを自覚し、実践すること。

移りかわる暮らしと地域資源



薬師寺小学校の木造校舎

自動車を所有している家庭がまだ少ない昭和40年代頃までは、薬師寺小学校の教員は薬師寺地区に住んでいる方が多く、自転車通勤したり、中には石橋からバスで通っている方もいました。先生と生徒が同じ地区で生活しており、日常的に顔を合わせていたため、その関係性は濃く、当時の学校は地域コミュニティそのものだったと言えるかもしれません。



自治医大駅(昭和58年(1983年)開業)ができる以前は、薬師寺地区の公共交通機関はバスが主でした。薬師寺からバスが出ていたため買い物や通学など石橋が生活圏になっている人も多く、そこから電車に乗り換えて宇都宮市へ出かけることができました。また、仁良川でバスを乗り換えて小金井や小山に行くこともできましたが、日常の買い物は薬師寺の中心を通る県道結城石橋線沿いに並ぶ商店が担っていました。



薬師寺小学校区の市民が集まる行事といえば、天王様と呼ばれる八坂神社の祇園祭です。7月の開催期間中はお仮屋という建物に神輿を飾り、地域の人たちが参拝します。薬師寺地区をお囃子と一緒に神輿が練り歩き、地域が最もにぎわい、多くの人と一緒に顔を合わせる機会でもあります。昔は、お祭りのときに民家の縁側で炭酸まんじゅうが振舞われることもあり、子どもたちの楽しみでした。

下野市の特産品と言えばかんぴょうです。薬師寺小学校区でも昔は庭先でかんぴょうが干されている光景が夏の風物詩であったそうです。最近ハウスの中に干すことが多く、住宅の塀も高くなったので、以前ほど目にすることはなくなりました。今でも



薬師寺地区ではたくさんのかんぴょう畑を見ることができます。



薬師寺小学校区は、グリーントウン地区の整備により人口が大きく増え、昭和63年(1988年)に祇園小学校区に分かれ、そこからさらに平成7年(1995年)に緑小学校区に分かれました。最近仁良川地区の整備により、南河内小中学校でも同地区の小学生が増え、生徒の半分ほどが仁良川地区から通学しているというクラスもあるそうです。

祇園小学校ができる前の薬師寺小学校区はとっても広い学校区だったので、家から学校まで遠い生徒は歩いて通学するのが大変だったそうだよ。



つなごうてれね! 条例10条

(協働)

第10条 市民、議会及び市は、まちづくりを推進するために、それぞれの立場を理解し、目的を共有し、相互に依存することなく力を合わせて、その実現に努めるものとする。



薬師寺地区のスポーツコミュニティ 竹の子クラブにお話を伺いました。



代表の佐藤啓一さんとクラブの子どもたち

竹の子クラブは小学生のソフトテニスチームです。主な練習場所が南河内テニスコートなので薬師寺小学校区の児童が多いですが、他の地区や市外から通う児童もいます。練習は主に保護者がボランティアで指導していますが、子どもがチームを卒業した後も残って手伝ってくれる保護者もいるとのこと。年末にはテニスコート周りの清掃を通じた地域活動を行うなど、テニスの上達だけでなくスポーツを通じて地域の子どもたちが育まれています。テニスは少人数でも高齢になってもできるので、年齢を問わず人が交流するのによってつけのスポーツですね。

団員募集中!

スポーツ少年団所属のソフトテニスクラブです。南河内テニスコートで毎週土日9時から13時まで練習しています。

薬師寺コミュニティはミルフィーユ



ミルフィーユって生地がたくさん積み重なったお菓子だよ

薬師寺地区は歴史のある地区だけに、地域の関係性の希薄化が課題とされる時代でも人々の豊かな関係が残っています。昔から住んでいるので親の代よりも前から知っているという方も多く、何十年も地元を離れたあとでも戻ってくるとすぐ昔のように地域の人とつながれるという方もいました。個人だけではなく、何代も積み重ねた縁はそこに住むことへの安心感につながっているのでしょう。



令和4年4月に開校した南河内小中学校



ヤク小の人文字です

薬師寺小学校の閉校はさみしいけれど、お祭りなどの行事やスポーツ団体などの地域をつなぐコミュニティは残っているし、南河内小中学校が開校して薬師寺小学校区と吉田西、東小学校区の子どもたちが一緒になることをきっかけにして大人にも新たなコミュニティの広がり生まれることを期待してる、なんて声もあったよ! たくさんの地域資源が見られる薬師寺小学校区をまた歩きたいな!



つながッテルね! 条例11条

(子どもの参画)

第11条 市民、議会及び市は、子どもを下野市の未来を担う地域の宝として育てるとともに、子どもがまちづくりに参画する機会を積極的につくり、その意見を尊重するものとする。



薬師寺から数学の世界へ

東京工業大学名誉教授・数学 黒川 信重 氏



薬師寺で育った黒川さんは
日本を代表する
数学者なんだよ!



薬師寺小学校で数の足し算と掛け算を習得したときから私の一生は決まってきた気がします。

東には形の良い筑波山を見て北には日光の男体山を眺めて、数学の世界で過ごして来て古希を迎えました。あつという間でした。

薬師寺小学校の恩師の藤沼浩先生の導きをきっかけに学問の世界にあこがれました。薬師寺小学校から南河内中学校にかけて養心館(藤沼先生は剣道の達人でした)での剣道の練習に通ったことも懐かしいです。

子供の頃は、夏のかんぴょう干しや夕方からの雷雨と稲光を楽しみました。あとで考えましたら、ピカッと光る稲光は、無限に続く素数 2,3,5,7,11,13,17, …へと通ずる新たな道を知らせてくれていたのでしょう。

宇都宮高校から東京工業大学へと遠距離の列車通学・通勤がはじまり、列車の窓から富士山の見事な姿を見ながらの長時間の研究を楽しむことができました。

下野薬師寺の古来からの進取の文化の中で、いつの間にか数十年が経っていました。

うれしいことに、数の宇宙の探求は果てしがなく、今でも研究に明け暮れています。

らいさまNEWS

ニュース 市民活動の拠点施設がオープンしました

令和4年5月16日にまちづくりの拠点として市民活動の支援を行う市民活動センターがオープンしました。建物は以前、生涯学習情報センターとして使用していたものを改修し、新たな施設に生まれ変わりました。会議室と研修室に加えて予約不要で利用できる交流スペースや授乳室も備えています。交流スペースには「らいさま」をはじめ、市内外の情報紙やイベントチラシも置いているので、ぜひお立ち寄りください。

市民活動センター所在地 緑 3-5-1 TEL 0285-32-7290



オープン前日に開催したセレモニーには
らいさま編集委員も参加しました。



編集後記



本紙の編集に携わって八年が経ち九年目に入りますが、今回は学校再編によるコミュニティの変貌に関心を持って見つめてきました。毎回埋もれているかに見える多様な人達の発見をするにつけ、地域のまちづくりに繋がる対象を認識出来たことは嬉しい限りです。総務省の定住自立圏共生ビジョンづくりや厚生労働省の地域包括ケアシステム、国交省のひと・まち・しごと創生会議、文科省の地域学校協働活動やコミュニティスクールなどの政策的行政的な焦点はすべからく地域コミュニティのまちづくりに収斂するものと思われます。ウクライナの戦争も含めて大きな社会転換点に立ち、私たちの日常生活に立ちはだかる課題はとてつもなく多いと思われます。(◎記)

【表紙】 雷電神社